



# 学校だより

# 7月

令和4年6月30日

横浜市立芹が谷南小学校

学校Webページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/serigayaminami/>

## 「子どもたちの願い」に思う

校長 大島 恵子

先日、地域の方から笹をいただき、技術員さんと有志の児童が学校まで運んでくれました。子どもたちが願い事を書いた色とりどりの短冊をつるし、昇降口に飾られています。「足がはやくなりますように」「ピアノを上手にひけるようになりたい」など子どもらしい願い事から「ユーチューバーになりたい」など今どきの願い事まで、子どもの思いはそれぞれです。また、「みんながずっと友達でいられますように」「みんなが元気でいられますように」などみんなのことに思いを広げた優しい願い事も見られます。願い事を実現するためには、もちろん努力が必要な場合も多々ありますが、どの子の願いも叶うといいなと思います。

6月17日に、「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト港南区審査会」が港南公会堂で開催されました。それに伴い、本校の学校代表となった6年生の児童が、審査会の前にテレビ朝会で、「知ることで 明るい未来へ」というテーマのスピーチを披露しました。戦争が起きないように自分たち子どもに何ができるのか、戦争と平和について思いをめぐらし、世界平和の第一歩は、まずは「知ること」だと彼女は考えます。そして、平和は放っておいても向こうからは訪れてくることはない、平和は自分たちの小さな「知る」という行動から始まると自分の思いを訴えました。平和への願いから今の自分にできることを考え、未来の平和に結び付けていこうという彼女の主張は、芹南のみんなの心に深く響きました。

最後に沖縄全戦没者追悼式で朗読された徳元穂菜さんの平和の詩「こわいをして、へいわがわかった」から一部、抜粋してご紹介します。

「～略～ せんそうがこわいから へいわをつかみたい ずっとポケットにいれてもっておく ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように こわいをして、へいわがわかった」

平和を願う子どもたちの思いに対して私たち大人は何ができるのか、そして何をすべきなのか考え、行動していきたいと思っています。今現在、世界の中で起きている争いの中で、連日報道される亡くなった方の数、それは単なる数字ではなく、その数字を表す一人ひとりかけがえのないいのちがあり、大切に思う人がいることを私たちは忘れてはなりません。機会あるごとにいのちの重みを子どもたちに伝え、平和を望む強い意志を育んでいきたいと思っています。

